

実践研修報告



班
チーム名：ぽじていぶ

1.ロジスティクスの基礎

①派遣目的地までの円滑な到達

- I班、J班で車両隊列を組み車両4台で移動
- トランシーバー使用し、連絡体制を確保
- J班と事前に共有した2カ所の休憩ポイントにて、道路状況の変化有無
- 目的地までのルート上にある、食糧調達可能なコンビニやスーパー、給油可能スタンドの有無

→**焦らず安全運転**



1.ロジスティクスの基礎

②衣食住の確保

衣

暑さの中なので、皆軽装だった事、期間が短かったこと、悪天候もなかったため、特に支障はなかった。**季節によっては個装の他にもそれなりの準備が必要**と思われる。

食

すべてのメンバーに適時に暖かい食事を目標に考えた。25日の昼食は時間的制限があり、ホットイートの性能を十分に理解出来ていなかったため、米飯の加温不足が生じてしまった。夕食は、量と質に置いて問題があったとはいえ、適切な加温を達成することができた。26日朝食はα米の水による1時間戻しを試み、妥当か結果を得る事が出来た。

携行食材の調理性、質とバラエティなどにはまだ工夫の余地がある。

住

保健所本部の1室が利用可能となり、休養のためには大変ありがたかった。実際の派遣に際しては、野営の可能性もあり、テントの仕様などに創意工夫が必要と思われる。また、**可能な限り休養区と活動区とを分けることが望ましい**と考える。



2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

①拠点でのカウンターパートとのコミュニケーション

カウンターパートとのコミュニケーション

- 派遣先の保健所長とのコミュニケーションからすべてが始まる
- METHANにそって**情報収集し本部の活動方針の決定**につながる
- 活動拠点の確保(住環境)**
- 災害医療コーディネーターとのミーティング**

給水車の確保 (実例)

- 県庁に要請したが医療圏内での確保を命じられた
- 保健所と相談し、確保に努めた

避難所アセスメント

- 保健所の保健師から2名の支援要請
- 車両1台とメンバー2名を提供し、3カ所の避難所アセスメントをおこなった。



活動医療圏に日頃から地域密着で活動しているのが保健所であり、災害時には本部活動に近い場所で連携することが重要であった

2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

②情報伝達手段の構築および通信訓練

<衛星電話>設置は、スムーズに行えた。

電話番号は、3つ登録したが、実際は、2つしか設置できていなかった。

→チーム内で、衛星電話の登録番号の共有ができていなかったこと、持参した衛星電話がすべて設置できていなかったことが要因

<トランシーバー>大船渡病院本部とは、トランシーバーを使用した情報伝達が行えた。情報伝達間違いなどのトラブルはなく、情報伝達手段として有効に活用できた。

<EMIS>管轄の病院状況、道路状況などEMISをタイムリーに確認し、情報収集に活用できた。

クロノロジーをEMISにアップするまでに時間を要してしまった。→クロノロジーは、早期にアップする準備ができておらず、エクセル入力形式を修正することに時間を要してしまったことが要因



2.拠点での本部立ち上げと本部内におけるロジスティクスの役割

③情報の集約と活用

- 情報の集約はホワイトボード活用し、クロノロジーにて共有
- 各被害状況把握のため、病院毎に一覧を作成
- To doリストを元に問題点の整理とミーティング
- 優先順位の決定と役割分担の適宜変更

→情報の可視化にて問題点、実行優先順位の共有がスムーズ



3. 多職種間の連携

①各組織特有の手法などについて

当チームは、医師・看護師・理学療法士・薬剤師などの医療従事者と消防、赤十字の職員からなるチームであった。医療従事者はそれぞれの職種の検知から傷病者の医療ニーズを特定することが可能であり支援に対する迅速なマッチングが可能であると考えられた。消防や赤十字は日常から災害現場などの緊急性が高く傷病者が発生する環境に従事していることから常に安全確保に意識があり災害時の活動にはスムーズに対応できる。また、**日常業務の中でも指揮命令系統が確立し、多組織と連携して職務に取り組むことからCSCAの最初のCに長けている。**

3. 多職種間の連携

② 多組織間の協働方法の検討

チームの組織作りに関しては災害時ということもあり、安全確保の重要性を常に意識することができ、組織だった活動に慣れていることもあり消防職員の隊員がリーダーを務めるのが適していると考えられた。各現場の医療ニーズについては医療従事者である隊員が薬品や医療機器の必要性を早期に着想することができ、補充される物資や隊の効率的な活用が期待される。また緊急性が低い被災者においても重症化をさけるべき対応を看護師の目線から考慮することができた。

当チームでは組織運営に長けた消防、赤十字職員の隊員による本部活動のスムーズな運営と、医療従事者による**被災地の医療ニーズの選定により効率的な物資や隊の投入が検討できる要素を持つ職種が協働することで先遣隊としての本部立ち上げに強みを発揮し得た**のではないかと考えられた。実動訓練では戸惑うことも多々あったがそれぞれの職種の強みを活かした人選も考慮して今後の活動に活かしたい。



ありがとうございました！！